

菱環鈕 1 II 式 横帯文

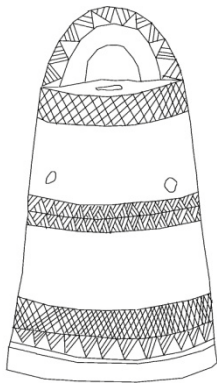
「菱環鈕 1 II 式」 1 鐸

※一定幅の明確な緒があるもの

○兵庫県 中川原鐸

兵庫県 洲本市中川原町二ツ石鐸 隆泉寺（津井）蔵

菱環鈕 1 II 式 横帯文 高さ 24.2 cm



観察想像スケッチ（想像ですので）

第一横帯は斜格子文

第二横帯は複合鋸歯文を 2 列

第三横帯は斜格子文

下辺横帯は鋸歯文

鈕部分にも鋸歯文

下界線は、2 条

緒は、無文

菱環鈕 1 式銅鐸は、裾に型持痕がない

複合鋸歯文を描く、銅鐸作成者は何を考えていたのだろうか？

鋸歯文一列だけでも、かなりの手間暇かかるのに、二列、さらに複合言葉にするならば、「編み込み」

鋸歯文の編み込みが、複合鋸歯文二列となるような気がする

複合鋸歯文は、松帆銅鐸 1 号第 1 横帯下部にもある

鋸歯文という文様だけでも、ただものではない

複合鋸歯文ですら 上段 L と 上段 R が存在する

中川原銅鐸は、上段 L の二列配置となっている

鋸歯文は、「L」「R」「LR」「IR」「Lr」とよく見ると微妙な違いがある

珍しい文様を描きたいと思って手間暇かけて作業している姿が目につかぶ